



ドリラス

富山県

No.92 2019年7月

中央植物園だより



第21回私の植物写真展入選作品「夏の予感」 撮影/竹田 恵美子さん

温帯スイレン（スイレン科）

温帯スイレンは18世紀にはヨーロッパで栽培されるようになり、19世紀には品種改良が盛んに行われました。フランスの画家モネの描いたスイレンも耐寒性のある温帯スイレンでした。

夜間開園「熱帯植物探検」開催のお知らせ

夏の恒例行事の1つ「熱帯植物探検」を今年も7月26日・27日の2日間開催します。夜間にしか見ることのできない夜咲きの熱帯植物の花やその香りを観賞していただけます。「探検」とあるように、参加希望者は職員のガイドで植物にライトを当てて解説を聞きながら各温室を回ります。昼に見るのとまた違った植物の様子を見てみませんか。多くの参加をお待ちしています。



昨年のラン温室内ライトアップの様子

BOTANIC GARDEN OF TOYAMA

イギリス植物紀行 — オックスフォード庭園整備に向けて

第一回 意外と暖かい冬のイギリス

栽培展示課 高橋 一臣

今年の2月半ばにオックスフォード大学植物園との交流の一環としてイギリスを訪問し、同植物園のほか、有名なキュー植物園や王立園芸協会のウィズレー・ガーデンなどを訪れました。富山県中央植物園とオックスフォード大学植物園の交流は、2012年に日本固有植物の種子収集プロジェクトへの協力依頼があったことに始まりました。2015年には、富山県が育成した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」とオックスフォード植物園にあったヨーロッパクロマツ「トールキン・ツリー」の種子交換が行われています。

今回の訪問の目的は、イギリスからサクラの接ぎ木用の穂木を導入すること併せて、中央植物園に造成する「オックスフォード庭園（仮称）」の参考にするため植物園等の調査を行うことでした。本当はもっと陽気のいい季節に訪問したかったのですが、サクラの接ぎ木の適期に合わせたため、この時期になりました。

オックスフォードでは、植物園の向かいにあるモードリン・カレッジのゲストルームに宿泊しました（写真1）。中世そのままのような、長い歴史を感じさせる建物でした。壁面にはいろいろな植物があしらわれており、イワガラミのようなつ性の木本だけでなく、ポケまでもが壁に這わせてありました。

さて、実際に2月のイギリスを訪れてみて驚いたのは、意外に暖かったこと。暖流の影響を受けているとはいえ、樺太と同じくらいの緯度にあるわけですから、富山よりはずっと寒いだろうと思っていました。しかし、最高気温は連日12~13℃ほどで、マンサクやクロッカスなどの花の咲き具合からみても、同時期の富山より季節が一步進んでいるように感じました（写真2）。日本では、いわゆる「イングリッシュ・ガーデン」は夏の猛暑を避けるためしばしば信州などの高原地帯に作られます。そんなこともあり、冬には針葉樹を除いて木々が葉を落とした、モノトーンの世界をイメージしていました。しかし、実際にはカシ類をはじめとする常緑広葉樹がふつうに植栽され、「青々とした」光景がみられました。（写真3）。

ヨーロッパでは地中海沿岸を除いて氷河の影響が大きかったため、野生植物の種多様性は低いといわれています（例えば、被子植物の種数は日本が4800種あまりであるのに対し、イギリスは1250種ほど）。しかし、現在のイギリスの気候は、夏は涼しく、冬も意外と暖かく、さまざまな植物の生育に適しているようです。18世紀頃以降、プラントハンターと呼ばれる人々が、多くの植物を世界中からイギリスにもたらし、宿根草を使ったボーダーガーデン（写真4）に代表されるガーデニング文化が花開くわけですが、マイルドな気候条件がそれを可能にしたのかもしれませんが。



写真1 モードリン・カレッジのゲストルームからの眺め。



写真2 キュー植物園のいたるところで咲いていた早咲きのクロッカス。



写真3 キュー植物園の地中海植物の区画。多くの常緑樹が屋外にも植栽されている。



写真4 ウィズレー・ガーデンのボーダー。これは植物園の大原副主幹が2015年7月に撮影したもの。

イベント開催レポート

第47回富山県蘭まつり大会

3月1日～3日に第47回富山県蘭まつり大会が開催され、富山県蘭協会会員が育成した洋ラン・東洋ラン等約360鉢が展示されました。今年の特別展示は5月の天皇陛下即位にちなみ「皇室ゆかりの蘭」と題し、皇室に関係する名前のついたラン10品種を展示しました。



特別展示「皇室にちなんだ蘭」の展示



富山県蘭協会員の作品展示会場



シンビジウム「プリンセス・マサコ」



デンドロビウム「ミチコ」

富山の植物 ◎「アオキ」

栽培展示課 志内 利明

アオキは冬でも青々と茂り、春先には2cmほどの卵状の光沢のある赤い実をつけます。19世紀のヨーロッパではアオキは耐寒性の高い貴重な常緑の樹木でしたが、初めは雌木しかありませんでした。アオキは雌雄異株なため、雌木だけでは結実しません。そこで、当時日本の植物の収集をしていたロバート・フォーチュンは、イギリスへ雄木を送ります。氏の著作「幕末日本探訪記」の中で、冬から春を通して深紅の実で彩られたアオキの姿を想像して「私のはるばる日本に旅行しただけの価値があると思う」と語っています。

アオキ類の分類はDNAによる解析から、ミズキ科からアオキ科（ガリア科）Garryaceaeに再編されました。国内のアオキ属の植物は染色体の倍数性と分布から、二倍体で四国南部、中国地方西部から九州、琉球に産するナンゴクアオキ、四倍体で本州の太平洋側と四国北部に分布するアオキ、同じく四倍体で本州の日本海側と北海道南部のヒメアオキの3つに分けられていました。しかし、東馬（2017）によるDNAによる系統解析から、四倍体のアオキと二倍体のナンゴクアオキは区別できないとして、アオキと多雪地帯に生じる生態型のヒメアオキの2変種のみを認めています。

もともと、富山でも雪深い山地に生育するヒメアオキはアオキと比べて、形態的に樹高が低く、幹は直立せず斜上し、葉が小型、若芽や花序の伏毛がやや多いという傾向が見られるのですが、里山など低地部ではアオキと区別できない個体も散見されます。どうやら、日本海側に分布するものは紀伊半島や四国東部に分布するアオキが約一万年前の最終氷期以降に分布を広げ、多雪地に適応できたもののようです。



写真1. アオキの果実



写真2. アオキの雌花



写真3. アオキの雄花

植物だより：仏教三聖樹のひとつサラノキが初開花

サラノキが5月下旬に初めて開花し、国内の植物園では3例目の開花となりました。当植物園のものは2008年に「草津市立水生植物公園みずの森」から頂いたもので、現在2mほどの樹高です。導入から11年経過していますが、3年ほど前から開花を目指して、鉢サイズや用土を変えるなど試行錯誤したところ、ようやく開花に至りました。

サラノキ（サラソウジュ）は「仏教三大聖樹」の一つとされ、この木の下でお釈迦様が入滅したとされています。「仏教三大聖樹」の他の2種はマメ科のムユウジュ（無憂樹：お釈迦様が木の下で誕生）、クワ科のインドボダイジュ（菩提樹：木の下で悟りを開く）で、いずれも熱帯雨林植物室に栽培展示しています。サラノキ（サラソウジュ）はインドから東南アジアに分布する熱帯樹木で耐寒性が弱く、日本で育てるには沖縄など暖かい地域を除いて温室が必要です。今回ムユウジュも同時期に開花し、2種類合わせて観ることができました。



初開花したサラノキ、花の直径は2cmほど(右上)と同じ時期に開花したムユウジュ(右下)

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール
企画展には入園料が必要です。

夏のラン展

7月6日(土)～7月7日(日)

特別展「二口善雄植物画展ー

植物画界のパイオニアの

画業を振り返る」

9月13日(金)～10月14日(月・祝)

第3回サボテン・多肉植物展

10月18日(金)～10月20日(日)

■夜間開園

ゲッカビジン観賞

7月の開花日2日間

19:00～21:30

夜間入園料/250円

熱帯植物探検

7月26日(金)～7月27日(土)

18:30～21:00

夜間入園料/250円

■早朝開園

ハスの花の観賞会

7月20日(土)～7月21日(日)

6:00～

■夏休み子ども企画

「森のクラフト」

7月23日(火)～9月1日(日)

「オオニバスに乗ってみよう」

8月16日(金)～18日(日)

各日とも午前 9:30～11:30

午後 13:30～15:00

■ポタニックガーデニングクラブ

(高校生以上対象、定員に達し次第締切)

多肉植物で楽しい

寄せ植えづくり◎要申込

10月19日(土)・20日(日)

両日とも13:30～15:30

定員:各日20名

参加費:1000円

■月例行事

月例行事には入園料が必要です。

植物ガイド

ーボランティアと歩く植物園ー

第1,2,4日曜日 13:30～14:00

集合場所/サンライトホール

ー園長と歩く植物園ー

第3日曜日 13:30～14:00

集合場所/サンライトホール

緑のコンサート

9月7日(土)、11月2日(土)

14:00～15:00

◎要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から前日までに「電話」でお申込ください。



富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日
(4月第1、2木曜日とGW、お盆、祝日の場合は開園)
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料	大人(一般および大学生)	500円
	団体料金(20名以上)	400円
	高校生以下ならびに70歳以上通年無料	
冬期入園料(12月～2月)	大人(一般および大学生)	300円
	団体料金(20名以上)	240円
	高校生以下ならびに70歳以上通年無料	
年間パスポート(購入日より1年間有効)		2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファポール」経由秋の島循環」または「ファポール」経由速星行き(休日のみ)に乗り「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.92

編集・発行/富山県中央植物園(指定管理者:公益財団法人 花と緑の銀行)
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL 076-466-4187 <https://www.bgtym.org/>
令和元年6月25日発行 印刷/中村印刷工業株式会社